

日本気象学会1996年度秋季大会の告示

1. 期 日：1996年11月6日（水）～8日（金）
2. 会 場：名古屋国際会議場（白鳥センチュリープラザ）

3. 研究発表

口頭またはポスターによる。口頭発表は4会場に分かれて行う。ポスター発表は「ポスター・セッションの方法」(下記)による。

講演申込方法については「講演申込要領」(下記)参照。

4. シンポジウム

大会第2日(11月7日)に開催予定。テーマは航空機観測を用いた大気科学に関するものを計画中。

5. 大会参加費、懇親会費

郵便振込による前納または当日受付による(前納用の振込用紙は6月号に挿入の予定)。大会当日は混雑しますので、極力前納するようお願いします。

なお懇親会は大会第2日(11月7日)夕刻に開催予定。

講演申込要領

1. 発表の種類

(1)講演方法には、口頭発表とポスター発表の2種類がある。

(2)このうち口頭発表には、第1種講演と第2種講演の2種類がある。

・第1種講演(発表5分、質疑2分)：発表内容には特に条件はない。

・第2種講演(発表10分、質疑5分)：よくまとまった段階にあり、論文等の形で査読制度のある刊行物に投稿済み、または1997年3月までに投稿予定の研究を発表する。

このため、第2種講演の申込には以下の要件が必要である。

(a)予稿には、1章を設けて明確なまとめまたは結論を書く。

(b)申込用紙には、研究を印刷発表する刊行物名(予定でも可)を書く。

講演企画委員会は予稿をチェックし、第2種講演に申し込まれたものが上記の要件を満たさないと判断した場合には、第1種講演に振り替える。

なお印刷発表予定の研究であっても、中間報告・速報の性格が強いものや、すでに第2種講演として発表された研究の補足の性格を持つものは、第2種講演の

対象にはならない。

'95春・秋季大会での第2種講演発表者の論文投稿状況は、「天気」投稿4件/発表8件('96.2.27現在)、「集誌」投稿10件/発表42件('96.3.20現在)となっている。

2. 発表件数の制限

口頭発表・ポスター発表それぞれ、1講演者について1件以内とする。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に処置する。

3. 申込方法

(1)本号末の申込用紙に記入し、予稿集原稿を添えて下記宛先に送付する。

〒305 茨城県つくば市長峰1-1

気象研究所予報研究部内

講演企画委員会(小泉 耕)

(2)申込期限：1996年8月19日(月)必着

4. その他

(1)講演者索引を作成するため、申込用紙には講演者の姓名とそのローマ字表記を明記して下さい。

(2)第2種講演については、なるべく予稿の本文にも印刷発表(予定の)刊行物名を書いて下さい。第1種講演やポスター発表についても、成果を印刷発表する予定であれば、予稿本文への記載をお願いします。

ポスター・セッションの方法

1. ポスター・セッションは大会第1日(11月6日)夕方に行う予定であるが、講演件数が多ければ他の日時にも行う。全体の時間は約1時間で、この間は口頭発表は休憩とする。

2. 各講演者は、指定された会場で概要紹介を行った後、ポスターの前で説明を行う。

3. 概要紹介の持ち時間は1分で、OHPを1枚だけ用いることができる。

4. ポスターの掲示場所は当日指定する。ポスターの掲示・撤去は、講演者自身が行う。なお掲示に必要な紙またはテープは、事務局で用意する。
5. ポスターには講演題目・講演者名を明記しておく。

6. 掲示板は縦 90 cm×横 180 cm 程度である。なおポスターは大きな紙 1 枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べても良い。

非会員の大会講演について

ここ数年、気象学会の春・秋の大会では、会員でない人が講演を行う例があるようです。

気象学会の定款では“会員は、次の特典を有する。(中略) 2. この法人の催す各種の学術的会合に参加すること。”(第 8 条)となっており、その中には当然、大会における講演も含まれます。その一方、細則では“講演企画委員会または大会委員会が承認した場合は、会員でない者も、学術的会合において講演を行うことができる”(第 12 条)と規定されています。

講演企画委員会では、実態をつかんだ上で、会員各位のご意見を参考にしながら、非会員の講演について“承認”の具体的な規定を作っていきたいと考えてお

り、春季大会に引き続き秋季大会でも以下のような措置をとります。

この件についてのご意見を、講演企画委員会(事務局は気象研・小泉)までお寄せ下さい。

1. 非会員による講演の実態を把握するため、講演申込用紙に会員番号の記入欄を設ける。
2. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員の講演を認める。

なお上記の措置は、あくまでも暫定的なものであり、次回以降も継続される保証はありません。講演企画委員会としては、大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう望みます。1996年 4 月 講演企画委員会

講演予稿集原稿の書き方

大会発表を申し込む会員は、以下の要領で予稿集原稿を作成し、本号末の申込用紙とともに講演企画委員会へ送付して下さい。

1. 原稿枚数：1 件 1 枚
2. 用紙：本号末の予稿用紙、または B 4 判あるいは A 4 判の白紙あるいは薄青色方眼紙を使う。原稿はそのまま写真製版され、B 5 判に縮小して印刷される。
3. 記入方法：用紙に直接書くか、別の用紙に書かれた文書・図表を貼る。
4. インク：墨または濃い黒色インクを使う。ワードプロセッサのインクが薄い場合には、コピーしてから使用する(インクが薄いままだと、字がかすれたり、方眼紙の網目が浮き出たりする場合があります)。
5. 配置

予稿用紙を使用する場合

1 行目に標題を書く。標題が長ければ 2 行目も使う。

3 行目に著者名と所属(勤務先等)を書く。所属は、カッコに入れる。著者が複数の場合には講演者の左肩に*をつける。必要に応じて 4 行目も使う。

5 行目以下に本文を書く。本文は 2 段組にし、左半分→右半分の順に書く。

B 4 判用紙を使用する場合(付図参照)

記載範囲は縦 305 mm 以内×横 215 mm 以内とし、上部には 20 mm 程度の余白をとる。予稿用紙の場合と同様、最上段に標題、その下に著者と所属を書き、本文をその下につける。標題から本文までの間隔は 25~30 mm とする。本文はなるべく 2 段組(左半分→右半分)にする。

その他の寸法や本文の字数・行数は、厳密に付図の通りでなくてもよい。

A 4 判用紙を使用する場合

記載範囲は縦 250 mm 以内×横 175 mm 以内とし、上部には 20 mm 程度の余白をとる。その他の寸法は B 4 判の場合の 8 割程度を目安とし、全体のレイアウトは B 4 判の場合と同様とする。

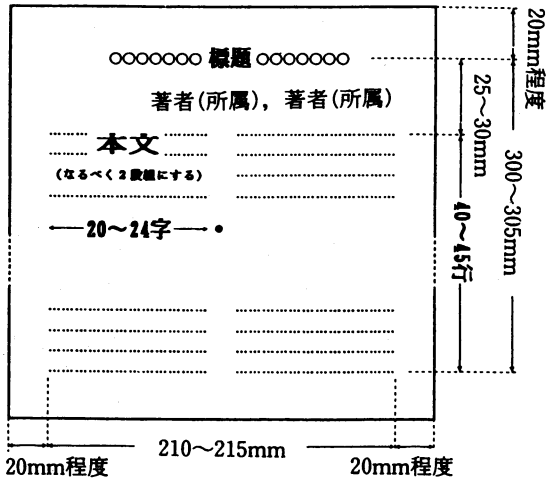
6. 図および表

墨または濃い黒色インクで、用紙の枠内の任意の箇所に直接描くか、白紙または薄青色方眼紙に描いて枠内に貼る。写真や図等には折り目が入らないようにする。階調のある写真はうまく出ません。

7. 著作権：予稿集に掲載された文章および図表の著

作権は日本気象学会に帰属する。

8. 送付先・送付期限：「講演申込要領」(343ページ)参照。なお、予稿集原稿を細かく折りたたまないで下さい(2つ折りは可)。



B4判用紙による予稿原稿の作成要領。

研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。具体的には、大会プログラムへの掲載、会場・機器の手配、時間の調整などが考えられます。支援を希望する方は、右記の事項を明記の上、講演企画委員会へ申し込んで下さい。

申込先・申込期限：大会講演と同じ

- 記入事項：1. 会の名称とテーマ
2. 代表者の連絡先
3. 希望日時・開催場所
4. 予想参加人数
5. 希望する支援内容